

第一場面

七組のまとめ

客は、ちようを見つくと過去の嫌な思い出を思い出し、恥ずかしくて顔を見られたくなかったから、ランプにかさをつけ、顔を見られないようにして語り始めた。

井藤大将

客は、ちようをピンにつけたまま羽の裏を見た。ちようを見ると過去の思い出がよみがえってきた。恥ずかしげに友人は、ランプのかさをつけて、過去について語り始めた。

石田雪馬

客は、自分でちようを見せてほしいと言った。だから見せたら、嫌な思い出を思い出したのか、「もう、結構」と言った。その思い出を話すために、自分の顔を見られないように、ランプにかさをして語り始めた。

堀江芹奈

客はちようを見て悪い思い出を思い出し、ランプにかさをさし、悲しい顔を隠しながら昔の自分について語り始めた。

小川竜之介

客は、「ちようが見たい」と自分で言うておきながら、「もう、結構」と断った。客が味わった過去の思い出を思い出したからだ。そして、彼は、ランプにかさを載せ、自分の顔が見えないようにして、その苦しい思い出を語り始めた。

大久保咲良

客は、ちようの入った箱を見て、過去の嫌な思い出を思い出してしまい、その話をするために、ランプにかさをかぶせ、暗くし、わたしに話し始めた。

後藤佑希

客は、外の明るさが暗くなると友に自分のテンションも下がっていった。そして、「わたし」が収集したちようを見たときに、過去の嫌な思い出を思い出してしまった。彼は「わたし」に顔を見られないようにランプにかさをつけて暗くし、過去の話を語り始めた。

柴田珠里

客は「私」のちようの収集を見せてほしいと言ったが、ちようを見てわき上がる感情を抑えきれず、「もう、結構」と見るのをやめた。客は顔を見られたくないとも言おうように、自分の良くない思い出を語り始めた。

満仲安紀

客は、わたしのちようを「見たい」と言って、最初は楽しそうに見えるけれど、だんだん良くない思い出を思い出し、その思いに一度は支配されてしまう。けれど、気持ちを整理して、そのくらい思い出を、ランプに緑色のかさをし、周りも暗くし、語り始めた。

下り藤文乃

客は、わたしにちようを見せてほしいと言った。しかし、客はちようを見たとき、良くない思い出がよみがえってきた。そこで、客はランプにかさをかぶせて、その思い出を、静まりかえった暗い夜に、語り始めた。

内木希美